アメリカはいつでも傑作品のゴールドラッシュ！

mono

7-2 USA 特大号

モノ・マガジン特集号

平成27年6月16日発行・発売（毎月2回2日・16日発行・発売）
第34巻第13号・通巻740号　昭和57年11月2日第3種郵便物認可
新製品から時代を読む
2015 NO.740
特別定価670円 www.monomagazine.com

フォトエッセイ
続・南行

一時の不調を乗り越え、いままた白頭鷲が羽ばたきだした！　ぼくらモノ・マガジンの
アメリカやそのギアたちに対する愛着はつねに変わらない、いや以前よりももっと増しているのだ！
MADE IN U.S.A回帰が顕著な「いまのアメリカ」を製品で切る渾身のアメリカ大特集、開幕。

米国の傑作品

この一冊で21世紀アメリカ製品の本流にふれる

モノマガ人が
憧れ続けた
アメリカは
今なお魅力的！

夏の快適ドライブを約束！
カー用品便利帖

熱き土佐魂が生む新名物
こじゃんとウマい **高知**

東急ハンズ特別企画
レジェンド文具

モノマガジン NO.740
第34巻第13号（通巻740号）昭和57年11月2日第3種郵便物認可
発行人 今井今朝春
発行所 株式会社 〒164-8551東京都中野区中野3-39-2
販売部☎03(5385)5701
本体620円

mono

CONTENTS

2015.7-2No.740

©WPP(禁・無断転載)
AD・表紙デザイン:若山トシオ
DTP:ベイス、ナギ
表紙イラスト:畠瀬 廉

特集担当者のおすすめ！

10年以上も年賀状を出していないボクですが、これで女子に手紙送ったらさぞかしムフフと思うのがEgg Press(エッグプレス)のレターセット。上質な厚い紙にグイッと圧をかけて印刷されたロゴや模様。これ活版印刷、というのだけれど、文章力なんかいらない。ただ「お元気？」と書いただけで、うまく(なにが)いきそうな佇まい。今なにかと話題のポートランドでも人気のブランド。暑中お見舞いに、使えます！ 詳しくはP143へ。

米国の傑作品

この一冊で21世紀アメリカ製品の奔流にふれる。

015 続・南行

構成と文／河村喜代子　取材と文／Burks Mikako
写真／今井今朝春　コーディネート／伊藤浩子

ボーダーラインを間にして向き合う町の第2弾「エルパソ」と「シウダード フアレス」。かつてスペインからやってきた植民者たちが、リオグランデ河の流れに沿って、北へとつづく道を見いだした。その場所が「エルパソ・デル・ノルテ」と呼ばれた。字義どおりに「北への通い路」にできた町は、現在、アメリカ側では「エルパソ」になり、メキシコ側では「シウダード フアレス」となっている。ボーダーラインを境に向き合うふたつの町には、失われた半身を求めるかのように強力な力が働いている。その現在の町を歩いた。

Charge Up
034 充電、完了。AMERICA2015
ついに完成した新たなNYのアイコン。アメリカの元気が戻ったことを象徴するビルディングとそれに携わる人々。摩天楼にそびえたつOWT(ワン・ワールド・トレーディングセンター)こそ、いま一番注目のMADE IN U.S.A.だ！

038 JEEP® WRANGLER UNLIMITED
042 COTTON U.S.A.
045 HELLO//TEXAS
046 「メイド・イン・U.S.A.とは何か」駐日アメリカ合衆国大使館商務担当公使に聞く
048 COLUMBIA × PORTLAND
052 REDWING
056 TRANSFORMER
058 STUDIO D'ARTISAN
062 SURE FIRE
064 Danner
066 TOYs McCOY
068 TIMEX
070 TIMBUK2
072 ALEX STREETER
074 crocs
076 McGREGOR
078 ESS
080 KEEN
081 UNDER ARMOUR
082 WESTERN ARMS
084 WILEY
086 Amiri
088 HOUSTON
090 KOTOBUKIYA(American Comic)
092 BROOKS
095 COLUMN「アメリカが支えた液晶50年」
096 Intel

特集 米国の傑作品 第2章

From Portland
143 egg press 活版USA
146 PHANTOM
148 TOKYO MARUI
150 WILDERNESS EXPERIENCE
152 SPERRY
154 THE STRIKE GOLD
156 Microteck
158 D CLOTHING
160 BARNS×革蛸
162 Bill Wall Leather

編集部より◎商品は取扱説明書に従って正しい使い方をしてください。掲載価格は税込みの価格です。実勢価格は編集部調べの価格です。◎次号のモノ・マガジンは、2015年7月2日(火)発売です。

メイド・イン・USAとは何か

プロダクトはもちろん、文化や精神にも日本への深い理解を持つ公使。そのフランクな人柄を頼りに、メイド・イン・USA復興の経緯と将来をたずねた。

文／田村十七男　写真／油科康司（WPP）

まさにフェンスの向こうのアメリカだ。高い壁の先にあるものすべて、壁のサインもトイレの造りも東京にいることを忘れさせる。

在日アメリカ大使館で出迎えてくれたのは、商務担当公使のアンドリュー・ワイレガラさん。日本の文化に興味を寄せた父や叔父のもとで育った彼は、南米、欧州、アジア、中東を経て、ようやく大好きな日本に来ることができたという。高校時代は交換留学生として埼玉で暮らした経験があるそうだ。そして、愛するワイフは東京生まれ。

さっそく公使にたずねる。メイド・イン・USAの復興が著しいようだが、実際はどうなのだろう？

「いくつかの事情が絡んでいます。まず、2008年から始まった深刻な不景気。2014年になって持ち直しましたが、厳しい経済状況の中でアメリカ国民の多くは、それまでのような安い海外製品を大量消費しない暮らしを実践するようになりました。そこで皆が気付いたのは量より質です。自分たちが本当に欲しいものとは何かを考え始めた。同時に、デジタリゼーションへのリアクションもあるようです。進化したテクノロジーは一般人にも多様な可能性をもたらしました。しかし、バーチャルが進めばリアルでエコなモノへの回帰も起きるのです」

公使によれば、最近は身近なメイド・イン・USAを探す個人発のウェブサイト（※）が全米で人気を博しているそうだ。自国製品の誇りを見つめ直すという点では、メイド・イン・ジャパン再興に努める我々の気分と似たものがあるかもしれない。

「終戦後の日本で受け入れられたメイド・イン・UASは、ライフスタイル製品が多くを占めています。アウトドア、アイビー、ハリウッド。ジーンズにスニーカーにサングラス等々、アメリカ人の日用品が人気を博しました。日本はそれに学び、やがて先生であるアメリカをいくつかの分野で追い越した。現在の私たちはそこに気付いています。

対して日本製品の特長は、クォリティの安定感です。LAあたりから火が点いたワビサビには魂すら感じられる。私たちのモノづくりがそれに適うのは難しい。ただ、これを見てください」。そう言って公使は1枚の写真を取り出した。そ

Mr. Andrew Wylegala

「こんなインタビューは滅多にないから楽しみにしていました」と笑顔の公使。この日のために私物のメイド・イン・USAプロダクトをたくさん用意してくれた。感謝！

アメリカ人の当たり前
コンバース

普段履きのALL STAR。初めて買ったのは小学3年生の時。

枝豆という名のチョコ等、公使室にはスナックが豊富。

※「USAラブ・リスト」www.usalovelist.com

1962年ニューヨーク州バッファロー生まれ アンドリューさんの想い出のアルバムから

1965年
初めての愛車はハミルトン製スチールプレスワゴン!!

1968年
65年式GMベル・エアーの前でご家族と記念撮影。

1976年
家族の新車フォード・ピントと過ごしたアメリカらしい時代。

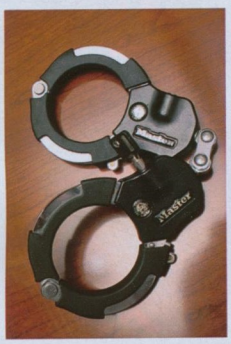
1979年
地元ニューヨークでの大好きなキャンプの1コマ。

TEXAS紳士の必需品 ステットソンのハット

これまた私物。被ると往年のムービースターのよう!?

ここには、休日に出掛けたイベントで発見したという商品が写っていた。「アメリカンインディアンが生み出したテクスチャーを日本のモノづくり技術で再現しているスケボーです。いや、実際にスケボーとして使うのかな? そこはちょっと不明だけど(笑)、日本の伝統とアメリカのマテリアルが今後さらに融合していけば、これまでにないメイド・イン・ジャパンとメイド・イン・USAが生まれていくでしょう。

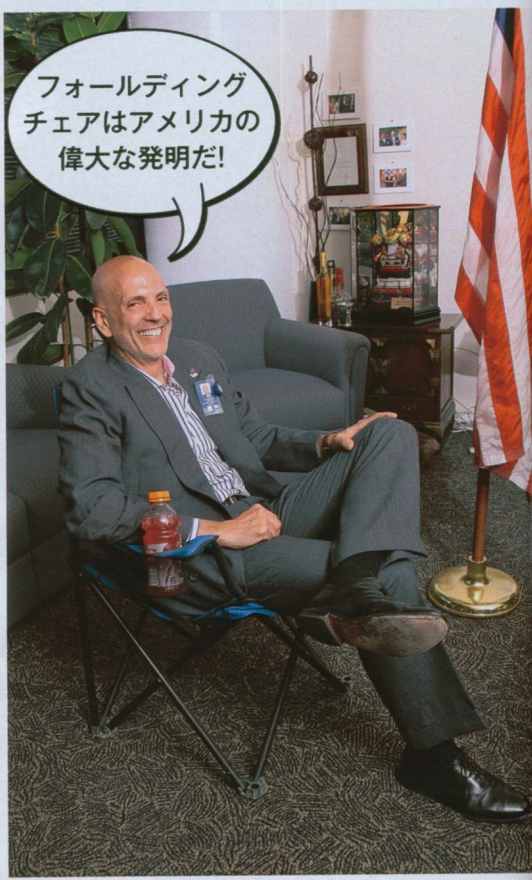
アメリカは若い国であり、常に変化と進化を繰り返しています。以前は我々が先生だったかもしれませんが、これからは日本が先生になる。特に今後のアメリカは、介護、共働き、子供へのケアといった領域でウェアラブルなソリューションを提供できるでしょう。これからもメイド・イン・USAにご期待ください」



made in USAの すんごい鍵!

実はバイシクルロック。もちろんメイド・イン・USA。スゴく重い!

NEWS 米国商務省は10月29~30日@南カリフォルニアにて、アメリカの一番ホットな製品のショーケース「Discover Global Market: Pacific Rim Consumersビジネスフォーラム」を開催する。日本未上陸のメイド・イン・USA製品と出会いたい貴兄はぜひ足を運びたい!



このコールマンのイスもわざわざご持参していただいた。

ハミルトンの腕時計とリストモニター

愛用のリストウォッチとランニングに便利なハイテクモニター。

現代のアメリカはクラフトビアもワインも美味い

「オレゴンのピノをぜひ」といきなり試飲会。

オットット

リーバイス(550)

「あのサンローランが嫉妬したのがUS生まれのジーンズです」